



哈囉, Hong Kong!



宮崎縣香港事務所通信
2025年10月 vol.21



学生の相互交流でお互いの学び・刺激に

宮崎県国際・経済交流課では、2018年に香港の小中高一貫校、セントマーガレット小中学校と交流協定を締結しています。

コロナ禍でお互いの訪問ができない時期もありましたが、例年、相互に訪問し、学生交流を行っています。今年も8月27日～30日の日程で宮崎の高校生6名が香港に滞在し、同校の生徒と交流しました。

学校生活・放課後に行っていることをお互いに発表したほか、「『宮』『崎』『日』『向』の文字が入った商品を200香港ドル・1時間以内で何個買えるか」といったゲーム感覚のミッションをチームに分かれて実施。英語・日本語、ジェスチャーを交えながらコミュニケーションを取り、1日が終わる頃にはすっかり打ち解けていました。(1)

セントマーガレット小中学校の生徒さんも宮崎に来県しています。今年1月、北きりしまで農家民泊をしながら5日間県内に滞在。普段高層ビルに囲まれ大都会で生活している学生さんには、さぞかし日本の農村生活は新鮮に映ったことでしょう。また一行は、公募で集まった県内の高校生8名とも交流。いっしょに駄肥の街を散策したり、食事をとったりしました。

こうした相互交流をさらに深化させていくため、相互理解や地域課題に対する協働・国際交流の機会を互いに提供することを目的とした協定を10月21日に改めて締結しました。



2025年8月 宮崎の高校生が香港へ



2025年1月 セントマーガレット小中学校の生徒が宮崎へ



当日は、同校のリー・ラン・ユン校長、児玉県商工観光労働部長が全校生徒の前に登壇。お互いのスピーチの後、協定書に署名しました。また、同校の生徒さんから日本語でこれまでの交流活動に関する感想や関係者に対する感謝の思いが語られました。

セントマーガレット小中学校では、学生は入学時点で勉強についていけるだけの英語及び標準中国語（普通話）の力が求められます。また、グローバル人材を育てるため、在学中に

フランス語・ドイツ語・イタリア語・日本語の内1つ以上履修することが必要です。これまで交流した宮崎の高校生も、同年代の学生が複数の言語を操る姿に驚く場面が多くありました。

香港ではビジネスだけではなく日常生活においても、相手にあわせて使用言語を変えることが当たり前に行われています。

幼少期から意欲的に外国語を学ぶ生徒さん達に触れて、刺激を受けて宮崎へ帰る人も少なくありません。



協定式の様子



セントマーガレットの校舎





日本旅行熱回復中...!?

7月～9月は旅行関係の展示会ラッシュ。香港事務所でも、3つの展示会に出展しました。

7月16日～22日、長丁場で行われたBookFairは、香港における夏休みの一大イベント。今年は台風の影響で日曜が閉場となりましたが、それでも約89万人の来場者がありました。本県ブースは、高千穂峽をボードで再現し、写真スポットに。「ここ行ったことあるよ」という方も多数いらっしゃいました。

9月12日～14日は広州市で開催された広東国際旅游博覧会へ。中国本土では宮崎の位置すら知らない方が大多数の状況ですが、中には「何月に行ったらホテルが見られますか?」「ここからここまではどの位時間がかかりますか?」といった突っ込んだ質問をされる個人旅行好きの方も。「日本に詳しい中国人は確実に増えている」と肌で感じる場面でした。

9月26日～28日には本香港Holiday&Travel Expoに本県初出展。同じ会場で旅行会社が商品をセール価格で多数販売しており、旅行意欲の高い来場者が多数訪れました。

JNTO日本政府観光局の発表によると、香港からの訪日外客は自然災害発生の際等により7月に前年同月比▲36.9%を記録。9月推計値でも▲12.2%と、回復基調にあるものの完全には戻りきっていません。

一方で、香港を拠点とする大手旅行予約サイトの調査によると、過去1年間の最も人気な旅行先は日本だったとのこと。今年前半に運休した地方空港の路線回復がなかなか見通せない状況ではありますが、日本旅行への熱はまだまだ底堅いものがあります。



香港ブックフェア 親子連れが非常に多い香港の定番イベント



広東国際旅游博覧会



香港 Holiday&Travel Expo



ジワリ来てます焼酎・泡盛

香港市場で焼酎・泡盛を少しでも盛り上げようと九州沖縄5県の香港事務所等で活動するグループ、焼酎・泡盛プロモーショングループ (SAPG)。8月上旬には、香港の酒類愛好家が結成する日本酒業連合会が主催する「Hong Kong Sake Festival」でPR。今年は、焼酎・泡盛の作り方や原料による風味の違い、飲み比べをするワークショップも開かれました。

このほか、8月14日～16日に開催された飲食業界のプロが集まる「Hong Kong Food Expo Pro」、在香港日本国総領事館主催の日本秋祭り開幕式にも試飲ブースを設置。11月に屋外で開催される日本をテーマとしたイベント「踊ろう! 秋祭り」では、地元香港の焼酎バーと連携し、焼酎・泡盛を販売予定です。

2025年前半の日本から香港への焼酎・泡盛輸出額は前年同期比で約1.5倍。6カ月で4千3百万円と日本酒にはまだまだ届きませんが、日本の伝統的な蒸留酒をもっと香港の方々に知って、飲んで、買ってもらえるための活動を地道に続けています。



試飲ブースに行列



焼酎のボトルを興味深く見る来場者



飲茶で一息

香港の食文化において、肉料理は欠かせない存在です。特に鶏肉、豚肉、牛肉は日常的に消費されており、調理法も多様です。

代表的な料理である「叉焼 (チャーシュー)」や「焼鵝 (ローストゲース(ガチョウ))」は、甘辛い味付けと香ばしい焼き加減が特徴で、地元民のみならず観光客にも人気です。

街中では、茶餐廳 (チャーチャテン/大衆食堂) で、肉とライスや麺を組み合わせたワンプレート料理、伝統的な飲茶 (ヤムチャ) では焼売など、手軽にいろいろな味を楽しむことができます。

また、香港では中華の次に日本食レストランの数が多く、焼き鳥や牛丼、しゃぶしゃぶなどの日本スタイルの肉料理もかなり浸透しています。(我々がチキン南蛮も食べられます!)

皆さんも香港で国際色豊かな美食を味わってみませんか? (奥)



飲茶の豊富なメニュー



店頭につるされた焼鵝など